

～ 甲賀市内の大切な自然が存在する地域について紹介します ～

土山地域の野洲川・田村川・笹路川などの河原に下りると、泥や砂が固まって縞模様をつくる地層が見られることがあります。

土山町鮎河から甲賀町北東部には、鮎河層群と呼ばれる地層があります。この地層からは、ビカリアという巻貝、オキシジミやニッポノマルシャという二枚貝、カニなど、海にすむ生物の化石がみつかります。

土山町黒滝の田村川河床からは、ヒゲクジラの化石が見つかっています。頭骨は発見されませんでした。背骨や肋骨などが並んでいて、体長4.5メートル程度のクジラと推定されました。この化石のレプリカは滋賀県立琵琶湖博物館で展示されています。

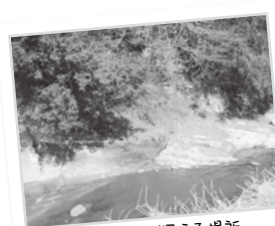
また、土山町山女原の笹路川の河原からは、イルカの下顎の骨が発見されています。砂岩の塊の中から発



カニ化石

見され、酸で少しずつ溶かして苦労して取り出されたということです。この化石のレプリカは六友館や琵琶湖博物館で展示されています。

鮎河層群から見つかる化石の種類や、地層の特徴から、約1700万年前の土山には干潟や浅い海が広がっていたと考えられます。詳しいことは「甲賀市史第一巻」にも書かれています。はるか昔にクジラやイルカがいまの土山で泳いでいたことを想像しながら、是非ご一読ください。



鮎河層群が見える場所
(土山町黒川の田村川河床)

問い合わせ みなくち子どもの森自然館

☎ 63-6712 ☎ 63-0466

2月の休園日

2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)

甲賀市文化協会 連合会文芸欄

●今回は、あいの土山文化協会からお寄せいただきました。

■山内俳句教室 前川 掬慈選

- ・故郷は 近くて遠し 十三夜
- ・白壁の 蔵を色どる 葛紅葉
- ・ちぎりとり 身に纏ひたき 秋の雲
- ・月光や グラスに透ける 能登の海
- ・子犬生れ 展示近づく 菊薫る
- ・白壁の 並ぶ宿場や つるし柿
- ・半田に 作りし小菊 風の径
- ・足早に 暮れ行く里や 柿たわわ

ひさこ

みちこ

よしこ

みちお

■土山もつく会

- ・冬木立 昇りし月の 見え隠れ
- ・鷺とぶや 冬田に影を 落しつつ
- ・問いかけて 答ふもの無し 冬木立
- ・文机の 疵にも慣れて 去年今年
- ・電柱の 影のみ霜を 残しけり
- ・来る孫に 去年の歌留多 探しいる

福永 昭子

藤田 恭子

松山 多津子

田村 勝子

福井 真理

大西 多喜男



●次回(4月1日号)は、水口町文化協会の予定です。